

平成 31 年 1 月 26 日
杉並区立東田小学校
校 長 篠原 基弘

東田小学校自己評価

○確かな学力の定着

・基礎基本の徹底

【成果】

学力調査については、全国（6年）東京都（5年）何れも平均値を上回っているかほぼ同じ水準である。区の特定期間調査では、昨年度に比べてR4以上が6学年以外で増えている。特に、国語3,5年、算数3,4年、理科4年が大きく伸びている。

校内研究で取り組んだ「東田スタイル」という活動（ペア・少人数学習、振り返り、参加率の向上）を重視した指導を多く取り入れた結果、話すことに自信を持ち自分の意見が言える児童が増えた。個に応じたドリルに取り組ませたり、学習支援教員や学生ボランティアも活用しながら反復練習を重ねたりした結果、基礎・基本が定着した児童が増えてきた。

言葉の教育としての百人一首も定着し、学期に1度の大会では一人一人が意欲的に取り組んだ。2年目になる「狂言教室」も、本物に触れることで日本文化に対する興味関心が深まった。

【課題】

区の特定期間調査に於いて、算数がこの3年間どの学年もR2以下の児童が杉並区の平均より減りつつあるが、まだ2割から3割存在している。校内研究でもさらに算数の研究を深め、結果につなげたいと考えている。センターの教育指定校2年目となるので、児童の自己肯定感を引き上げ学力向上に向けてさらに努力を重ねていく。

・授業の充実と指導法の工夫・改善

【成果】

校内研究で算数に取り組み3年目になる。授業の進め方が共通理解深まり、導入（フラッシュカード）・ペア学習・ノート指導・振り返りが定着してきた。児童のアンケート結果からも、算数の授業が好き、よく分かるようになった、等の項目で肯定的ポイントが向上した。教員も指導の仕方に手ごたえを感じている。特定の課題調査結果を受け、夏季休業中に各担任が作成した授業力改善プランを実行し、3学期に検証することができた。来年度に引き継いでいく。

東田必読書を活用し、学校司書と連携をとり学校図書館を学習センターとして利用させることができた。必読書を完読した児童は、昨年の100名と同程度が達成できそうである。児童の読解力も向上した。異動した教員と苦手な教員を対象にICTを活用した分かりやすい授業の研修を適宜行い、教員のスキルアップに努めた。IWBを使用した分かりやすい授業を全教員が取り組んだ。各自のスキルアップのための研修会を適宜開き、効果的なICTの活用方法を知ることができ毎日IWBを活用した授業をすべての教員が行うようになった。

主任教諭によるミニ研修を計画的に行い、それぞれの得意な分野での指導法の工夫やスキルアップの情報を共有することで個々の授業力の向上につながっている。

【課題】

まだ、全員がICTを使いこなすまでにはなっていない。さらに研修を深めて、児童にもスキ

ルアップを図っていく。校内研究をさらに進め、導入の工夫・ペア学習の工夫と学び合いの効果的な導入などを通して児童に自信を付けさせていく必要がある。

○健康な心と体づくり

・体力の向上

【成果】

体力向上センター校の時に取り組んだオリンピック、パラリンピック教育を継続的に推進し、月曜日、水曜日の朝に行う「チャレンジタイム」で長なわ・かけ足に取り組み運動の日常化を図ることができた。

体力テストの結果では、「握力」6年の女子が上回った。下学年でも平均値が全国平均に迫る勢いで伸びている。東田サーキットや鉄棒等の取り組みの成果と考える。50m走とシャトルラン、立ち幅跳びについては、安定して全国平均と同じ程度か上回っている。杉並区の平均と比べれば、上回っている項目が多い。ボール投げの結果も向上している。

【課題】

体力テストの結果が、握力、上体起こし等の筋力系の力が弱い。反復横跳びは全学年で全国平均を下回った。鬼ごっこなど、敏捷性を養う運動を多く取り入れていく必要がある。総合的な体力向上に向けて、体育の年間計画を意図的計画的に見直していく。

・道徳授業の充実

【成果】

全国、東京都、教科書会社の資料を活用した道徳の授業に取り組むことが出できた。1学期は授業観察に道徳を取り上げ、全学級で校長から指導を行い授業のレポートを校内に発信することで、授業の改善が見られた。「いじめ」についても、教員の普段の指導の結果、児童のいじめに対する感覚が向上していじめを発見したりなくそうとしたりする心情が高まった。

【課題】

「特別の教科 道徳」について、全職員で共通理解を図り、評価の在り方をさらに検討・実践していくことが課題である。

・特別支援教室

【成果】

2年目となる「ひがした教室」には、巡回指導教員が5名配置され22名の児童の指導を行った。通常学級の担任と特別支援教室に通う児童の指導法について、情報交換ができ研修会を通して特別支援教育についても理解が深まった。当該児童も安心して通室している。

【課題】

教室の確保が難しい。来年度は該当児童がさらに増えることが予想される。しかし、児童数増加による教室不足により活動場所が限られてくることが課題。

○教育調査より

・回収率81.2パーセント（昨年度より約2ポイント低い）家庭数よりやや多い回収率だったので、兄弟一緒に出した家庭も多いと考える。

・学校経営全般他

保護者の回答は、学校生活全般については約85%が肯定している。昨年度より約10ポイン

ト下がっている。特に4年生の肯定率が低い。学級経営にやや問題があったためと思われる。現在は良好な状態である。「小中一貫教育・異校種の協働」という項目は、目に見えてこないこともあり55%の肯定率になっている。昨年度より5ポイント向上した。さらに情報提供していくことが来年度の課題である。学級経営については、保護者は約80%の肯定に対し児童は約95%が肯定している。

・学習指導

「個に応じた指導」の項目は昨年度児童と教師のずれがあったが、今年度児童は75%以上が肯定しており、認識が深まったと考える。そのほかの項目についても、80%以上保護者も児童も肯定している。

・地域共に在る学校

昨年度まで、90%以上の肯定率だったが、今年は約80%と10ポイント以上下がってしまった。これまで東田小の特徴である「地域と共に子供を育てる」ということが保護者に伝わりにくかったのか、行事のフェスタを変えたことが影響しているのか検証して、来年度アピールしていきたい。

○その他

・生活指導全般

子供たちの安全安心のために、計画的に避難訓練や生活指導を行うことができた。いじめ調査では、子供たちのいじめへ対する意識の向上とともに案件が増えたが担任と保護者との連携で速やかに解決できることが多い。現在不登校2名である。

・幼保小連携

幼保小連携推進校として学校の様子を知ってもらうために、6月に近隣の幼稚園、保育園の年長児を招待して5、6年生との交流給食を行っている。また、2月には1年生と近隣の年長児との交流活動を行い、新1年生としての期待を膨らませると共に不安を取り除くようにしている。

教員も長期休業中に、近隣の保育園にを訪ね幼児の様子を参観して保育士と懇談会を開き幼少の連携について情報を共有し相互理解を深めた。

・小中一貫教育

6月：職場体験（2名）

7月：小中合同研修会（於：杉二小）英語・数学・国語T・Tで小学校教員が入る。

12月：クラブ体験（エニシングOk）クリーンアップ大作戦 図書館交流

1月：キャリア教育（中学生職場訪問）

2月：中学校見学（6年）英語出前授業（6年）

昨年度より多く交流活動を行うことができた。来年度は、更に中学生が小学生と関わる場面を増やしていく予定。

・行事について

今年度から、東田フェスタに代えて学芸会・展覧会の形式に変更した。児童数の増加により、これまでの奇数学年が生活科・総合的な学習の発表、偶数学年が体育館での劇発表という形式が不可能になったため。

今年度は学芸会（東田劇場）だったが、保護者の反応は概ね良いと肯定的な意見が多かった。